

アジアの伝統芸能 第八回

# 越劇から西洋音楽へ

バイオリン協奏曲梁祝の誕生



## 「梁山伯と祝英台」

前回の授業では、浙江省の地方劇である越劇を通して、中国に千年以上も昔から伝わる「梁山伯と祝英台」について学んだ。

学問をしたい一心から、男装して杭州の学校に入学した祝英台。彼女はそこで梁山伯という誠実な青年にほのかな恋心を抱く。しかし、三年後、帰郷した祝英台を待っていたのは、父親の決めた縁談だった。

封建的社会の中で、自由な恋愛に殉じた二人の物語は、伝統芸能を通じて、中国の人々に愛されていた。

映画「舞台姉妹」第二場 (1:04)

## 越劇から西洋音楽へ

一九五九年、中華人民共和国の建国十周年を記念して一つの協奏曲が発表された。そのテーマに選ばれたのが「梁山伯と祝英台」である。

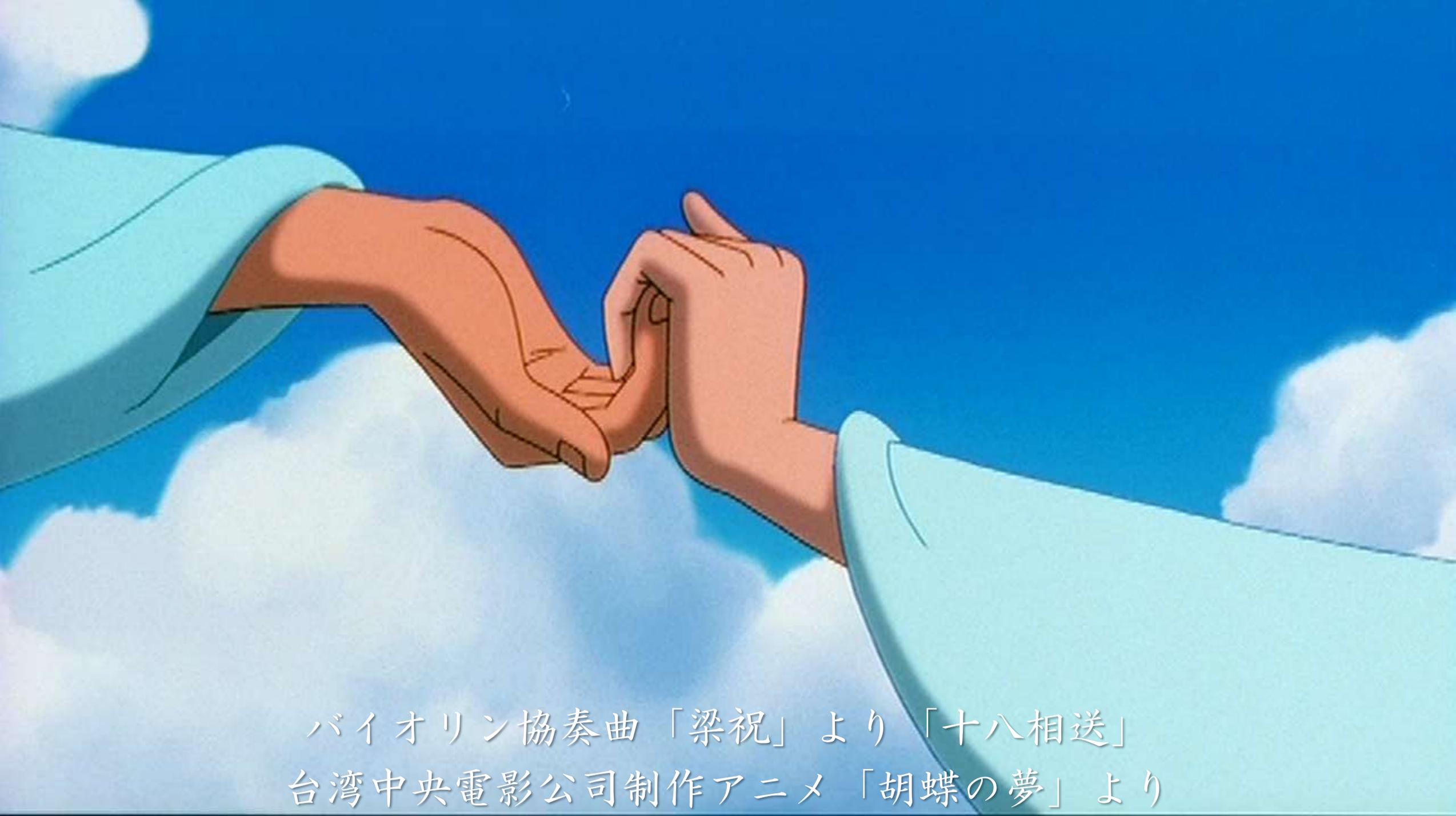
西洋音楽に越劇の音楽を大胆に採り入れたこの曲は、やがて「民族の協奏曲」と呼ばれ、中国の国民的音楽となっていく。

今回の授業では、越劇から西洋音楽へと生まれ変わった梁祝の世界を紹介する。

協奏曲「梁祝」の初演風景

バイオリン独奏 俞麗拿 (1959年)





バイオリン協奏曲「梁祝」より「十八相送」  
台湾中央電影公司制作アニメ「胡蝶の夢」より

# 第一節

バイオリン協奏曲「梁祝」の誕生



第一次アヘン戦争(1840-42)

第二次アヘン戦争(1856-60)

日清戦争(1894-95)

義和団事件(1900)

日中戦争(1937-45)

国共内戦(1946-49)

朝鮮戦争(1950-53)

中華人民共和国建国十周年(1959)

## 中華人民共和国建国十周年

### 〔解説〕

一九五九年、中華人民共和国は建国十周年を迎えた。

一八四〇年のアヘン戦争以来、百年以上にわたる欧米列強や日本の侵略を受け、半封建半植民地と呼ばれる状況に置かれていた中国の人びとにとって、この年は記念すべき年であった。



Q

バイオリン協奏曲「梁祝」の作曲者は  
どの人でしょうか？

①丁善徳

②何占豪

③陳鋼

④孟波

(1959年撮影)

# 何占豪と陳鋼

〔解説〕

建国十周年を記念してバイオリン協奏曲「梁祝」を作曲したのは、当時上海音楽学院の学生だった何占豪と陳鋼の二人だった。



②何占豪



③陳鋼

①丁善徳

(1959年撮影)

# 何占豪（一九三三〜）

## 〔解説〕

作曲者の一人何占豪は、一九三三年、浙江省諸暨に生まれた。

幼いころから越劇を好み、五〇年、高校を中退して浙江省文工団に入団。五二年、浙江省越劇団の楽団員となった。

五七年、上海音楽学院の管弦楽器科に入学。俞麗拿ら学友とともにバイオリンの民族化の実験グループを結成。五八年、建国十周年の記念作品として、バイオリン協奏曲「梁祝」の作曲を開始した。



## なぜ梁祝を選んだのか？

「（私の故郷）諸暨には、私が小さいころ、二種類の芝居が流行っていました。一つは越劇、もう一つは紹興大板です。」

私の祖母は大の越劇ファンで、よく私を芝居につれていってくれました。おかげで私は小さい頃から故郷の音楽の薰陶を受けることになったのです。」

〈諸暨テレビ局「足跡」より



## なぜ梁祝を選んだのか？

「上海音楽学院に入学したのはバイオリンを学ぶためでした。卒業したら、浙江省にもどろうと考えていました。」

ところが当時、大学で習うのは外国の曲ばかり。私の故郷の芝居とは相容れないものでした。そこで、バイオリン曲を改革して民族化しようとして、作曲の勉強を始めたのです。」

〈諸暨テレビ局「足跡」より



## なぜ梁祝を選んだのか？

「バイオリンで（二胡の曲である）『二泉映月』を演奏したのは、私たちが始めてでした。バイオリンで民謡や芝居の音楽を演奏すると、一般の人々にも理解しやすいので、大変喜んでくれました。そこで（バイオリン曲の民族化）に取り組むことにしたのです。」

〈諸暨テレビ局「足跡」より



「二泉映月」(二胡演奏 賈鵬芳 2004年)

## なぜ梁祝を選んだのか？

（上海音楽学院の指導部に建国十周年の記念作品のテーマを提出したとき）、私たちは「製鋼運動」や「国民皆兵」といった現代的なテーマのほかにも、「梁祝」を加えることにしました。すると党委員会書記の孟波先生は、この三番目の題材に印をつけ、「これ作曲してごらん」と言ったのです。

〈諸暨テレビ局「足跡」より



名言啓示錄「何占豪」 (鳳凰視頻)



丁善德

何占豪

陳鋼

孟波

(1959年攝影)

## 陳鋼（一九三五〜）

### 〔解説〕

作曲者のもう一人、陳鋼は、一九三五年、上海に生まれた。

幼いころからポピュラー音楽の作曲家であった父・陳歌辛の薰陶を受け、五五年、上海音楽学院の作曲科に入学した。

五八年、指導教官であった作曲家・丁善徳教授の推薦により、「梁祝」の作曲に参加した。



陳鋼（1959年撮影）

## 陳歌辛（一九一四～六一）

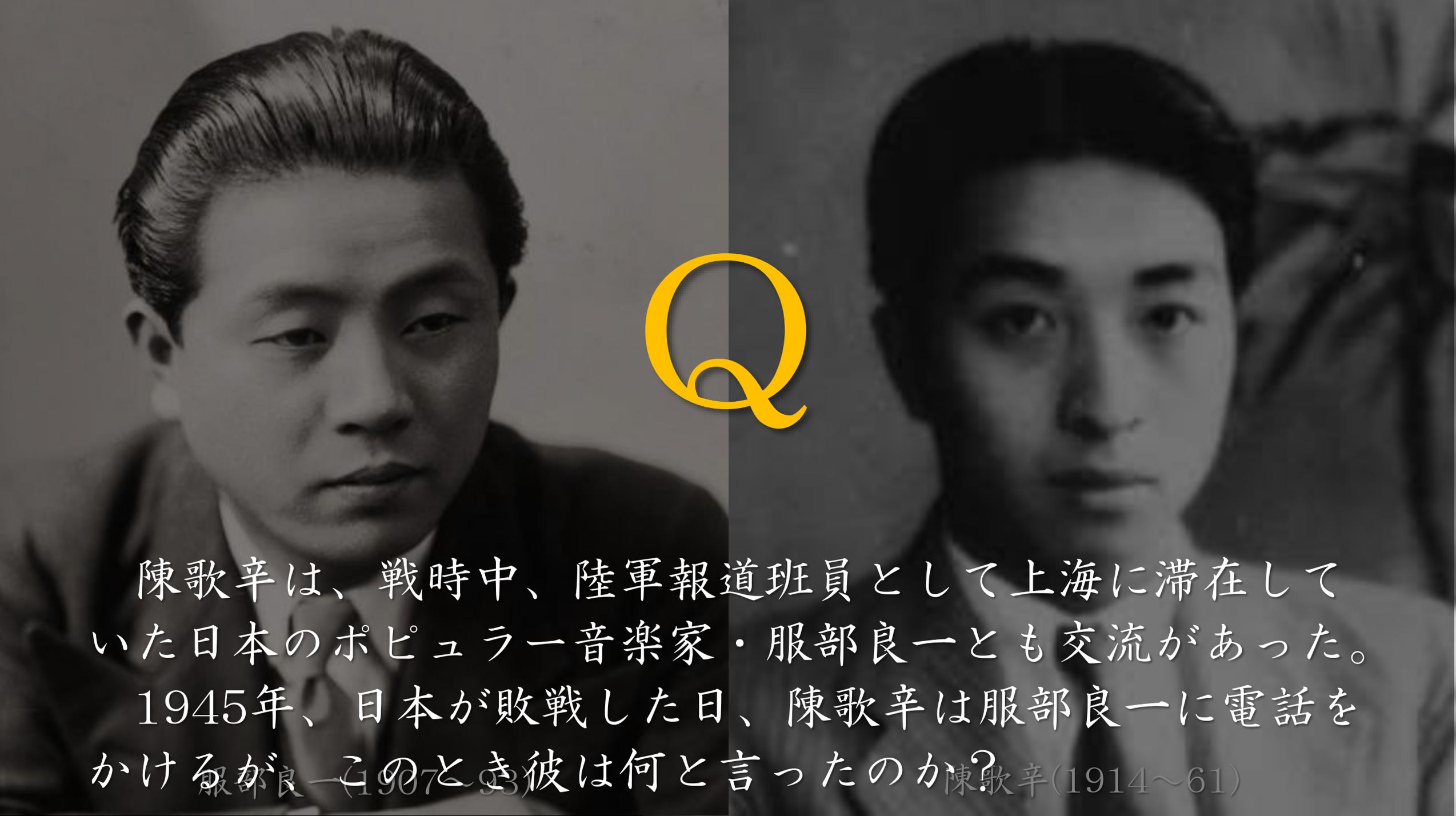
### 〔解説〕

陳鋼の父・陳歌辛は、一九三〇年代から四〇年代にかけて、上海で活躍したポピュラー作曲家。

戦後、米国の音楽チャートで三位になった「玫瑰 玫瑰 我愛你」や、「花樣年華」など、数多くのヒット曲を飛ばした。

陳歌辛(1914~61)





Q

陳歌辛は、戦時中、陸軍報道班員として上海に滞在していた日本のポピュラー音楽家・服部良一とも交流があった。

1945年、日本が敗戦した日、陳歌辛は服部良一に電話をかけるが、このとき彼は何と言ったのか？

服部良一(1907~93)

陳歌辛(1914~61)

## 服部良一と陳歌辛

八月一五日、終戦の日……自室に帰ると電話のベルが鳴った。陳歌辛からだった。

「コングラチュレーション、ミスター・ハットリ」

「何がコングラチュレーションだ。ぼくの国は負けたんだ」

上田賢一著『上海ブギウギ——服部良一の冒険』  
(音楽の友社、二〇〇三年)

服部良一(1907~93)

## 服部良一と陳歌辛

「ノー。戦争をしていたのは我々の国で、我々音楽家同士が戦争をしていたわけではない。戦争が終わって、これであなたと私は軍を気にせず堂々と付き合えるようになったのです。だから私はコングラチュレーションと言いたい。今晚、酒を持って行きますから待っていて下さい」

上田賢一著『上海ブギウギ——服部良一の冒険』

(音楽の友社、二〇〇三年)

陳歌辛(1914~61)

## 服部良一と陳歌辛

服部さんは上海に来て以来、彼らと親しく付き合ってきたが、「自分は敵味方関係なく付き合っているつもりだが、彼らはもしかして日本が上海の支配者であるから自分に対して友情を示しているのではないだろうか」と心のどこかで疑っていたことは否定出来なかった。

上田賢一著『上海ブギウギ——服部良一の冒険』  
(音楽の友社、二〇〇三年)

服部良一(1907~93)

## 服部良一と陳歌辛

しかし、この時、死を覚悟して自分のところに来てくれる彼らの真の友情に、服部さんは自分の抱いた疑念を恥じた。彼らは以前とまったく変わらない態度で服部さんに接し、何度もやって来ては悠々と帰っていった。

上田賢一著『上海ブギウギ——服部良一の冒険』  
(音楽の友社、二〇〇三年)

服部良一(1907～93)

## 服部良一と陳歌辛

陳歌辛は、一九五七年に起こった反右派闘争の中で右派のレッテルを貼られた。そして、六一年、労働改造のために送られた安徽省白茅嶺農場で、栄養不良のため、この世を去った。享年、四七歳であった。

彼の名誉が回復されたのは、文化大革命（一九六六〜七六）後の七九年である。

上田賢一著『上海ブギウギ——服部良一の冒険』

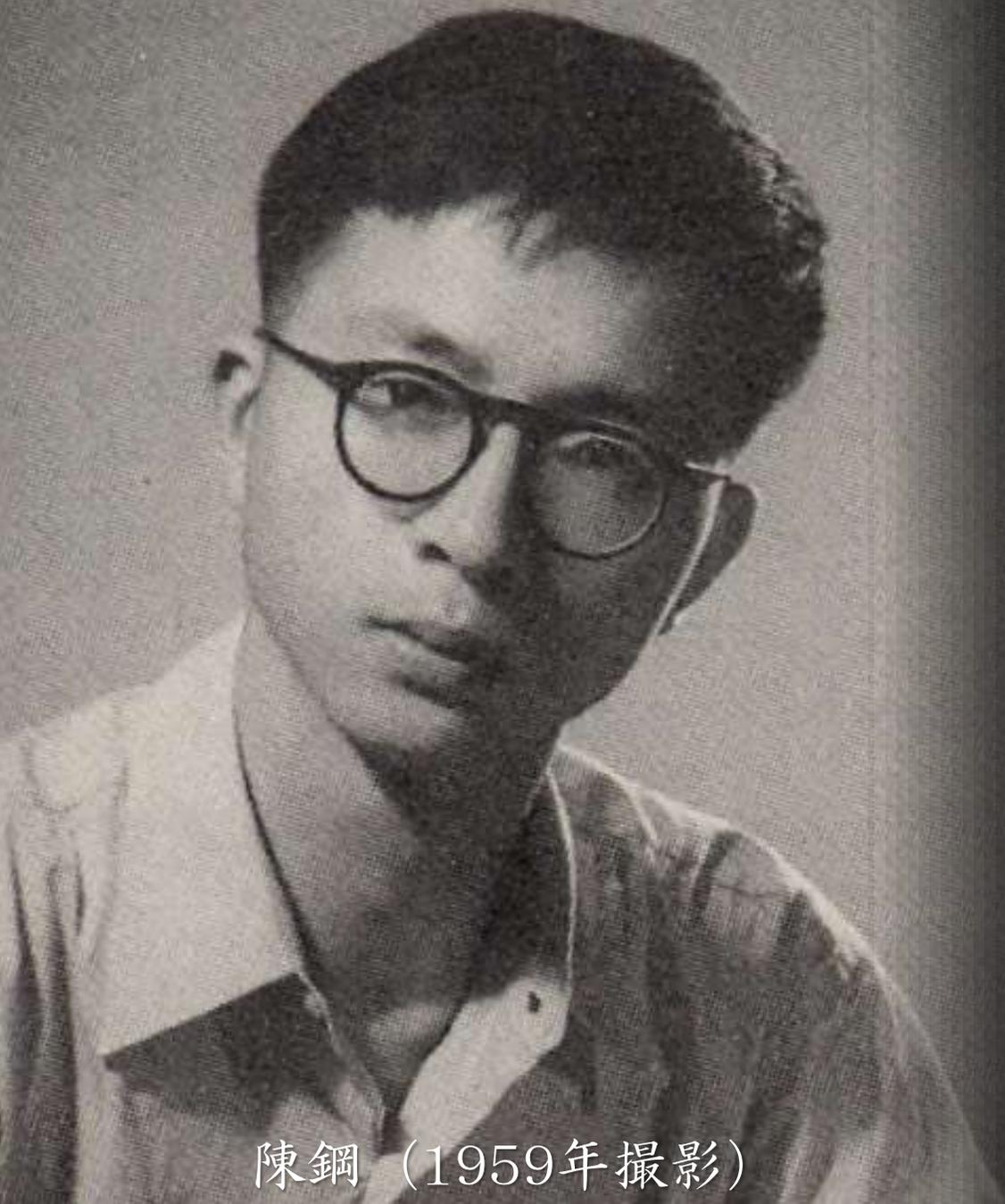
（音楽の友社、二〇〇三年）

陳歌辛(1914~61)

## 陳鋼（一九三五〜）

父親の陳歌辛が右派のレツテルを貼られ、労働改造に送られたため、学内には、陳鋼を建国十周年の記念作品の制作に参加させることに反対する声もあった。

しかし、党委員会書記の孟波の擁護により、制作への参加が認められた。



陳鋼（1959年撮影）



丁善德

何占豪

陳鋼

孟波

(1959年攝影)

## 第二節

西洋音楽と中国伝統演劇の融合



## 西洋音楽と中国伝統演劇の融合

バイオリン協奏曲「梁祝」の特徴は、西洋音楽に越劇の旋律やリズム、楽器を取り入れ、両者を巧みに融合させた点にある。

音楽形式としては、西洋音楽のソナタ形式に従っているが、特徴的なのは音楽を通して梁祝の物語が克明に描き出されていることである。

バイオリンが祝英台、チェロが梁山伯となつて、二人の感情を細やかに表現している。

序奏

提示部

展開部

再現部

# バイオリン協奏曲「梁祝」の構成

序奏	(江南の春の情景)
提示部	草橋結拜
	三載同窓
	十八相送
展開部	抗婚
	楼台会
	哭霊投墳
再現部	化蝶

## 第三節

### 鑑賞と解説





バイオリン協奏曲「梁祝」

作曲 何占豪、陳鋼

指揮 譚利華 演奏 中央楽団

バイオリン独奏 呂思清 (映像) / 盛中華 (音声)



### 引子（江南の春の情景）

祝英台は故郷を離れ、江南の春景色の中、杭州へと向かう。

序奏にあたるこの部分では、フルートが小鳥のさえずりを奏で、オーボエが越劇の過門（歌の間に演奏される間奏曲）をアレンジした旋律で江南の美しい春景色を描き出す。



バイオリン協奏曲「梁祝」より「引子」

指揮 譚利華 演奏 中央楽団

バイオリン独奏 呂思清



### 草橋結拜（草橋で兄弟の契りを結ぶ）

杭州に向かう途中、祝英台は梁山伯という一人の少年に出会う。意気投合した二人は、草橋のほとりで義兄弟の契りを結ぶ。曲はここから提示部に入る。ハープの伴奏に合わせて、バイオリンが第一主題である“愛情の主題”を奏でる。



A male violinist with dark, curly hair is shown in a close-up, playing a violin. He is wearing a black tuxedo jacket over a white dress shirt and a white bow tie. His eyes are closed in concentration as he plays. The background is a blurred orchestra with other musicians visible.

バイオリン協奏曲「梁祝」より「草橋結拜」

指揮 譚利華 演奏 中央楽団

バイオリン独奏 呂思清



### 三載同窓（三年間の同窓生活）

杭州の学校に入学した二人は、三年の間、机を並べ、楽しく幸せな学生生活を送る。提示部の第二主題。音楽はここで明るく、軽快な旋律に変わる。



バイオリン協奏曲「梁祝」より「三載同窓」

指揮 譚利華 演奏 中央楽団

バイオリン独奏 呂思清



## 十八相送（十八里亭に英台を送る）

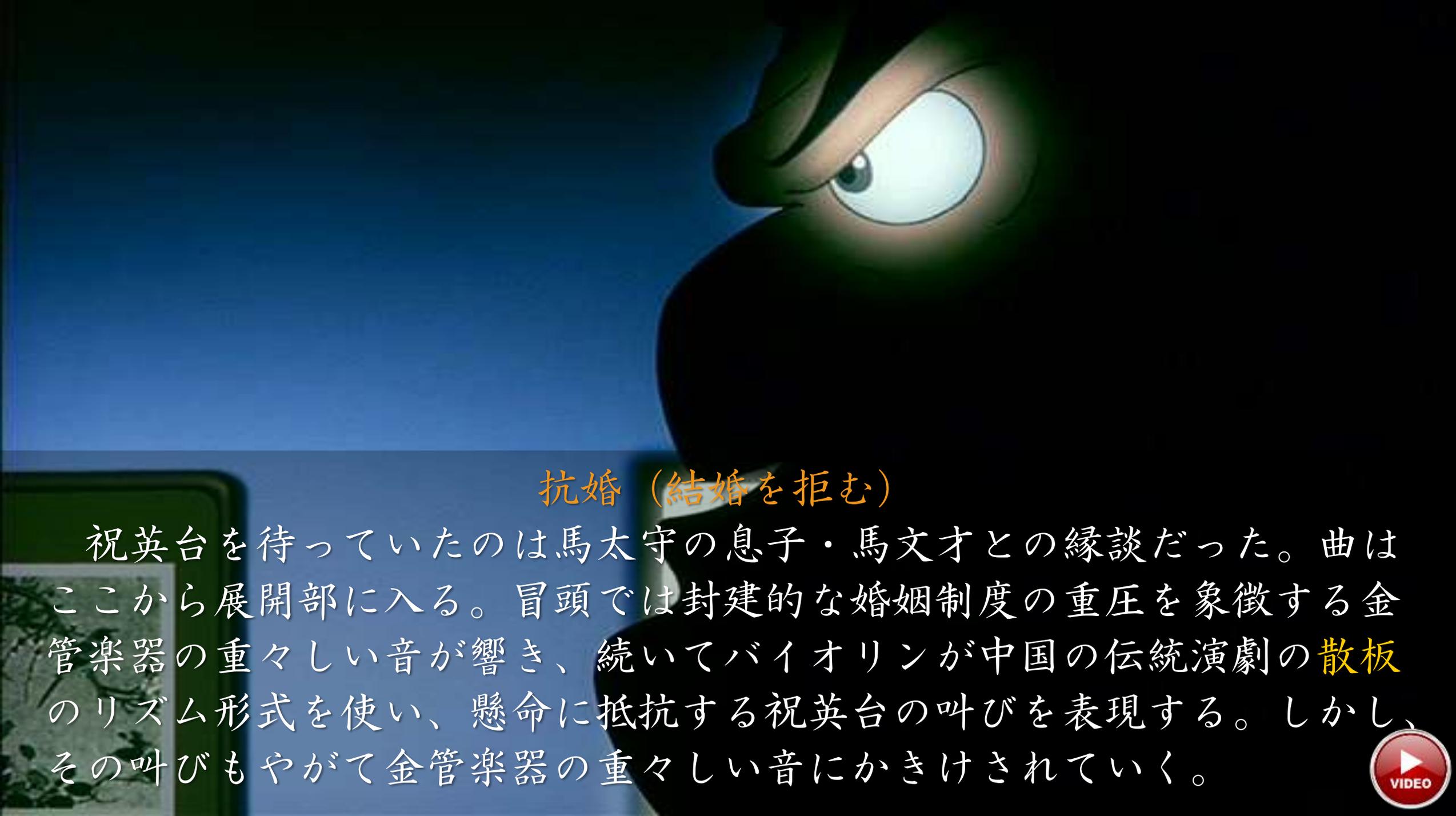
三年の時間が流れ、二人に別れの時がやってくる。提示部の最後であるこの部分では、祝英台のせつない思いをバイオリンが情感豊かに奏で、やがてそれに応えるかのように、梁山伯を表すチェロの演奏が加わる。



バイオリン協奏曲「梁祝」より「十八里相送」

指揮 譚利華 演奏 中央楽団

バイオリン独奏 呂思清



## 抗婚（結婚を拒む）

祝英台を待っていたのは馬太守の息子・馬文才との縁談だった。曲はここから展開部に入る。冒頭では封建的な婚姻制度の重圧を象徴する金管楽器の重々しい音が響き、続いてバイオリンが中国の伝統演劇の散板のリズム形式を使い、懸命に抵抗する祝英台の叫びを表現する。しかし、その叫びもやがて金管楽器の重々しい音にかきけされていく。



バイオリン協奏曲「梁祝」より「抗婚」

指揮 譚利華 演奏 中央楽団

バイオリン独奏 呂思清



### 楼台会（楼台での再会）

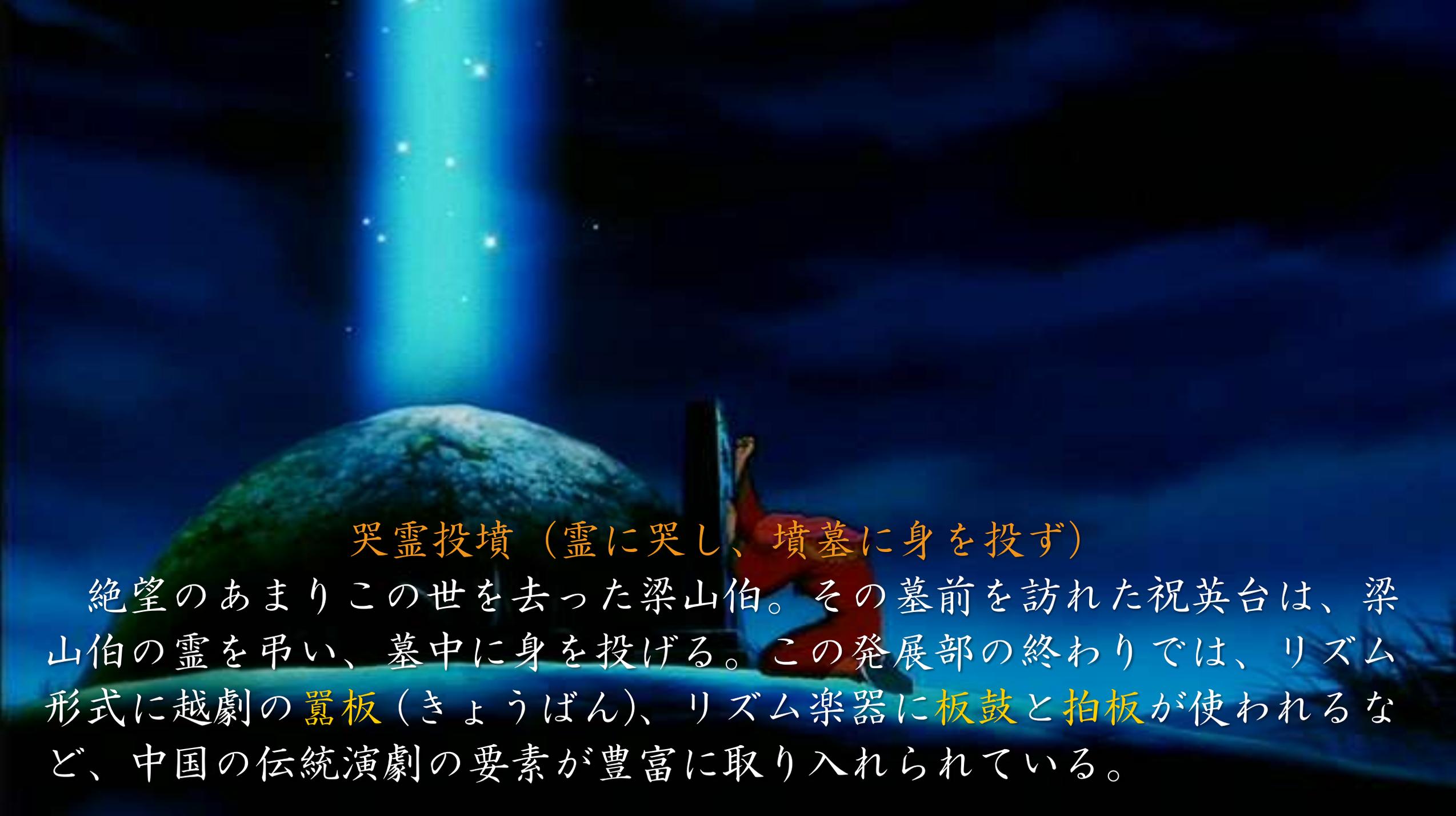
再会の約束を果たすため、梁山伯は祝家を訪ねる。祝家の楼台で久しぶりに再会した二人。しかし祝英台はすでに馬家との縁談が決まっていた。楽しいはずの再会が悲しい別れとなってしまった二人。バイオリンとチェロが絡み合いながら、結ばれぬ二人の悲しみを歌い上げる。



バイオリン協奏曲「梁祝」より「楼台会」

指揮 譚利華 演奏 中央楽団

バイオリン独奏 呂思清

A person in a red robe is kneeling in front of a large, rounded tomb mound at night. A bright blue beam of light descends from the sky, illuminating the scene. The background is dark with some faint stars or distant lights.

### 哭霊投墳（霊に哭し、墳墓に身を投ず）

絶望のあまりこの世を去った梁山伯。その墓前を訪れた祝英台は、梁山伯の霊を弔い、墓中に身を投げる。この発展部の終わりでは、リズム形式に越劇の囂板（きょうばん）、リズム楽器に板鼓と拍板が使われるなど、中国の伝統演劇の要素が豊富に取り入れられている。

## 越劇のリズム形式の一 囂板

囂板は四分の二拍子という緊迫した伴奏の中、役者が伴奏とは異なるリズムとテンポで歌うという矛盾した音楽表現が生み出すリズム形式。

これにより登場人物の苦悩や葛藤が力強く表現される。



## 中国伝統演劇の楽器 板鼓・拍板

中国伝統演劇では「鼓師」と呼ばれる伴奏の責任者が、左手で拍板、右手で板鼓を打って伴奏と舞台進行の指揮をする。

バイオリン協奏曲「梁祝」では、越劇の**囂板**のリズムを作るためにこれらの伝統楽器使われている。

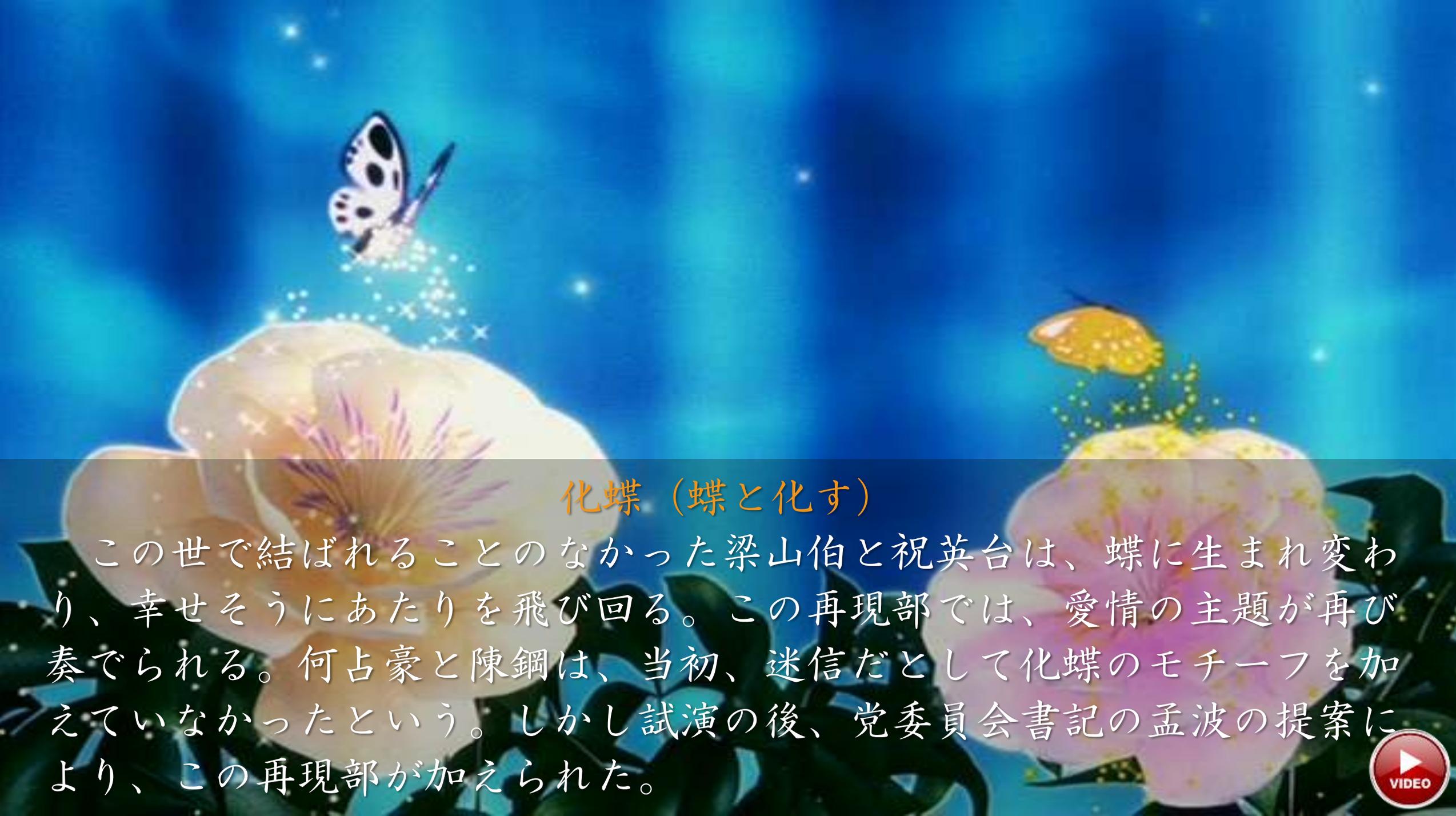




バイオリン協奏曲「梁祝」より「哭霊投墳」

指揮 譚利華 演奏 中央楽団

バイオリン独奏 呂思清



## 化蝶（蝶と化す）

この世で結ばれることのなかった梁山伯と祝英台は、蝶に生まれ変わり、幸せそうにあたりを飛び回る。この再現部では、愛情の主題が再び奏でられる。何占豪と陳鋼は、当初、迷信だとして化蝶のモチーフを加えていなかったという。しかし試演の後、党委員会書記の孟波の提案により、この再現部が加えられた。





梁山

台湾中央電影公司制作「胡蝶の夢～梁山伯と祝英台」より

## まとめ

バイオリン協奏曲「梁祝」は、一九五九年、中華人民共和国の建国十周年を記念して作曲された。作曲したのは、当時、上海音楽学院の学生であった何占豪と陳鋼の二人である。

越劇の胡弓奏者であった何占豪は、バイオリン音楽の民族化のため、越劇の旋律や音楽技法から多くの素材を集め、作曲を学んでいた陳鋼とともにソナタ形式のバイオリン協奏曲にまとめた。

西洋音楽と中国伝統演劇とを融合させ、梁山伯と祝英台の伝説を音楽によって克明に描き出したこの曲は、「民族の協奏曲」と呼ばれ、いまも国民的な人気を誇っている。